

平成30年度

# 事業報告書

学校法人 君が淵学園

## 1. 法人の概要

### (1) 建学の精神と基本理念

崇城大学の前身は、昭和 24(1949)年に、前理事長・学長の中山義崇が「戦後日本の疲弊を救う道は産業の振興と産業人の育成にある」と痛感し、私塾「電気・電波学校」を創立した時に始まる。その後、熊本県の許可を得て、昭和 28(1953)年に「君が淵電波専門学校」を設立し、設立の目的を「祖国日本の再建は、私学の振興により、体・徳・智の調和と同時に科学的思考のできる秀れた人材を育成すること」とした。この考え方を根本的な建学の精神としている。

本学は、法人名を「君が淵学園」というが、この「君が淵」とは、「体・徳・智」の優れた人々、即ち「君子」が自ら相集まって「淵」をなすという意を表す。学校創設以来、この校風は一貫して受け継がれ、健康で徳・智を兼ね備えた「君子」たる資質を有する学生が自ら集い来て切磋琢磨し、自由と創造の学風の中で自己研鑽を積んでいる。崇城大学はこれらの精神を受けて以下のような建学の精神と基本理念を掲げている。

#### 【建学の精神】

1. 近代文明を築くものは、科学技術と感性の世界であることは言をまたない。大志を抱き、本学に集い学ぶ者、真理を探究し、一専門家を目指すに甘んずることなく、文化の担当者たる栄光を担うとともにその責務を忘れてはならない。
1. 科学の発展と芸術の創造は、古来より脈動する人間精神に基づく。本学の教育にあつては、科学と芸術の背後にある精神文化の存在を忘れず、広い世界観の樹立に努めなければならない。
1. 現代、科学技術は、長足の進歩をとげる反面、細分化され、人間疎外等の憂いを起すおそれなきにしもあらず。ここにおいて、われら先端的な学術修練を志す者、美の世界を追求する者は、人間関係を重視し、生命を尊重する道義を体しなければならない。これらと倫理の融合こそ建学の基本である。
1. 本学は自由と創造を重んずる私学である。時代を開く新鮮な主体性が必要で、和の学園である。「和して同ぜず」とあるが如く、調和こそ真の和合で始めて秩序が確立する。
1. 本学は産学提携により「知の基地」として新実学を形成し、芸術を含め、地域社会における文化の府となり、世界の平和に寄与しなければならない、われら教職員学生一同「崇城大学運命共同体」でなければならない。
1. 校名の示すとおり、政治文化の中心たる城の中に在って、伝統を継承し大業を崇<sup>おこ</sup>し、人より崇<sup>あが</sup>められるが如き存在感を持ち、以て社会の立て役者として努めなければならない。

## 【基本理念】

1. 大志を抱き本学に学ぶ者は、私学の誇りのもと、不屈の精神をもって真理を学び、技術・技倆を磨き、将来を担う人材たることを決意すべきである。科学、文化、芸術を総合的に学び、深い教養を身につけ、豊かな世界観を培わなければならない。
1. すべての学習にあたっては、自ら求める自学自習の態度として、心を無にして望むこと。「求めよ、然らば与えられん」、まず自らふみ出すべきである。修養の時期は吸収の期間である。されば孤高をさけ、つねに社会の動きに心し、世界の流れに眼を向け、広い知性の持主とならなければならない。
1. 大学は若人が出会い、その青春熱情の交流する場である。会い難き師につき、得難き友と交わり、この人倫関係のなかで、各自人格の涵養に精進し、人生を築かなければならない。
1. 他日、社会に出て、知識人、科学人、作家として活躍するもとである知徳を体得し、その原動力である強靱な体力を養い鍛練し、来たる日に備え、この学園において悔いなき日々を過ごさなければならない。これこそ親兄弟が期待し、世の負託に応える道である。

## (2) 学校法人の沿革

|         |  |
|---------|--|
| 昭和 36 年 | 学校法人君が淵学園創設認可 校地を熊本市池田町 2332 番地に定める                                      |
| 昭和 40 年 | 熊本工業短期大学設置認可 電子工学科設置   |
| 昭和 42 年 | 熊本工業大学設置認可 電子工学科・機械工学科・工業化学科設置   |
| 昭和 42 年 | 熊本工業短期大学廃止   |
| 昭和 44 年 | 土木工学科・建築学科増設   |
| 昭和 48 年 | 電気工学科増設  |
| 昭和 51 年 | 構造工学科・応用微生物工学科増設   |
| 昭和 57 年 | 熊本工業大学大学院設置認可<br>工学研究科 応用微生物工学専攻 修士課程設置                                  |
| 昭和 62 年 | 大学院専攻増設 工学研究科 構造工学専攻 修士課程  |
| 平成元年    | 大学院専攻増設 工学研究科 応用微生物工学専攻 博士後期課程 応用化学専攻 修士課程                               |
| 平成 2 年  | 熊本工業大学附属情報技術専門学校工業専門課程設置認可   |
| 平成 3 年  | 大学院専攻増設 工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程 電気・電子工学専攻 修士課程 機械工学専攻 修士課程 建設システム開発工学専攻 修士課程 |
| 平成 7 年  | 熊本工業大学 工学部 全学科 夜間主コース設置認可  |
| 平成 8 年  | 大学院専攻増設 工学研究科 エネルギーエレクトロニクス専攻 博士後期課程                                     |
| 平成 10 年 | 大学院専攻増設 工学研究科 環境社会工学専攻 博士後期課程  |
| 平成 10 年 | 学科名称変更 工業化学科から応用化学科  |
| 平成 11 年 | 大学院専攻増設 工学研究科 機械システム工学専攻 博士後期課程  |
| 平成 12 年 | 応用生命科学科増設  |
| 平成 12 年 | 熊本工業大学芸術学部設置認可   |
| 平成 12 年 | 大学名称変更 熊本工業大学から崇城大学<br>専門学校名称変更 熊本工業大学附属情報技術専門学校から崇城大学専門学校               |
| 平成 12 年 | 学科名称変更 土木工学科から環境建設工学科  |
| 平成 13 年 | 学科名称変更 電子工学科から電子情報ネットワーク工学科  |
| 平成 13 年 | 学科名称変更 電気工学科から応用電気情報工学科  |
| 平成 13 年 | 学科名称変更 構造工学科から宇宙航空システム工学科  |
| 平成 13 年 | 留学生別科日本語専攻設置   |
| 平成 16 年 | 大学院専攻増設 工学研究科 応用生命科学専攻 博士前期課程・博士後期課程                                     |
| 平成 16 年 | 大学院研究科増設 芸術研究科 美術専攻 修士課程 デザイン専攻 修士課程                                     |

|         |  |
|---------|--|
| 平成 16 年 | 専攻名変更 構造工学専攻から宇宙航空システム工学専攻   |
| 平成 17 年 | 崇城大学薬学部設置認可  |
| 平成 17 年 | 改組 工学部電子情報ネットワーク工学科、応用電気情報工学科を情報学部電子情報ネットワーク学科、ソフトウェアサイエンス学科、コンピュータシステムテクノロジー学科へ |
| 平成 17 年 | 改組 工学部応用微生物工学科、応用生命科学科を生物生命学部応用微生物工学科、応用生命科学科へ                                   |
| 平成 18 年 | 大学院専攻増設 芸術研究科 芸術学専攻 博士後期課程   |
| 平成 18 年 | 薬学部薬学科の修業年限の変更(4 年制⇒6 年制)  |
| 平成 19 年 | 改組 工学部応用化学科、環境建設工学科をナノサイエンス学科、エコデザイン学科へ  |
| 平成 19 年 | 工学部 宇宙航空システム工学科に航空整備士養成コースを開設  |
| 平成 20 年 | 工学部 宇宙航空システム工学科にパイロット養成コースを開設  |
| 平成 21 年 | 改組 情報学部 電子情報ネットワーク学科、ソフトウェアサイエンス学科、コンピュータシステムテクノロジー学科を情報学科へ                      |
| 平成 21 年 | 工学部、情報学部、生物生命学部の夜間主コースを募集停止  |
| 平成 21 年 | 工学部 応用電気情報工学科を廃止   |
| 平成 21 年 | 工学部 応用微生物工学科を廃止  |
| 平成 23 年 | 改組 工学研究科 エネルギーエレクトロニクス専攻、電気・電気工学専攻を、応用情報学専攻（博士後期課程、博士前期課程）へ                      |
| 平成 24 年 | 工学部 電子情報ネットワーク工学科を廃止   |
| 平成 24 年 | 大学院研究科増設 薬学研究科 薬学専攻 博士課程   |
| 平成 24 年 | 工学部 応用生命科学科を廃止   |
| 平成 26 年 | 情報学部 電子情報ネットワーク学科、コンピュータシステムテクノロジー学科を廃止  |
| 平成 26 年 | 工学部 応用化学科を廃止   |
| 平成 27 年 | 工学部 環境建設工学科を廃止   |
| 平成 28 年 | 工学部 エコデザイン学科を廃止  |
| 平成 28 年 | 情報学部 ソフトウェアサイエンス学科を廃止  |
| 平成 29 年 | 崇城大学専門学校を募集停止  |
| 平成 29 年 | 留学生別科日本語専攻を募集停止  |
| 平成 31 年 | 崇城大学専門学校を廃止  |

(3) 設置する学校・学部・学科等 (H30.5.1 現在)

| 設置する学校 | 開設年月  | 学部・学科等   | 摘要         |  |
|--------|---|--|------------|--|
| 崇城大学   | 平成11年4月<br>平成03年4月<br>平成10年4月<br>平成23年4月<br>平成元年4月<br>平成16年4月<br>平成03年4月<br>平成元年4月<br>平成03年4月<br>昭和62年4月<br>平成23年4月<br>昭和57年4月<br>平成16年4月 | <b>【工学研究科】</b><br>機械システム工学専攻 博士後期課程<br>応用化学専攻 博士後期課程<br>環境社会工学専攻 博士後期課程<br>応用情報学専攻 博士後期課程<br>応用微生物工学専攻 博士後期課程<br>応用生命科学専攻 博士後期課程<br>機械工学専攻 修士課程<br>応用化学専攻 修士課程<br>建設システム開発工学専攻 修士課程<br>宇宙航空システム工学専攻 修士課程<br>応用情報学専攻 博士前期課程<br>応用微生物工学専攻 修士課程<br>応用生命科学専攻 博士前期課程<br><br><b>【芸術研究科】</b><br>芸術学専攻 博士後期課程<br>美術専攻 修士課程<br>デザイン専攻 修士課程<br><br><b>【薬学研究科】</b><br>薬学専攻 博士課程 |            |  |
|        | 昭和42年4月<br>平成19年4月<br>昭和44年4月<br>昭和51年4月  | <b>【工学部】</b><br>機械工学科<br>ナノサイエンス学科<br>建築学科<br>宇宙航空システム工学科  |            |  |
|        | 平成12年4月<br>平成12年4月  | <b>【芸術学部】</b><br>美術学科<br>デザイン学科  |            |  |
|        | 平成21年4月   | <b>【情報学部】</b><br>情報学科  |            |  |
|        | 平成17年4月<br>平成17年4月  | <b>【生物生命学部】</b><br>応用微生物工学科<br>応用生命科学科   |            |  |
|        | 平成18年4月   | <b>【薬学部】</b><br>薬学科 (6年制)  |            |  |
|        | 崇城大学<br>専門学校  | 平成 2年4月  | 工業専門課程情報学科 |  |

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況 (H30.5.1 現在)

【崇城大学】

| 研究科   | 専攻           | 課程     | 入 学 員<br>定 員 | 収 容<br>定 員 数 | 現 員 数 |
|-------|--------------|--------|--------------|--------------|-------|
| 工学研究科 | 機械システム工学専攻   | 博士後期課程 | 2            | 6            | 0     |
|       | 応用化学専攻       | 博士後期課程 | 5            | 15           | 2     |
|       | 環境社会工学専攻     | 博士後期課程 | 2            | 6            | 0     |
|       | 応用情報学専攻      | 博士後期課程 | 4            | 12           | 1     |
|       | 応用微生物工学専攻    | 博士後期課程 | 5            | 15           | 2     |
|       | 応用生命科学専攻     | 博士後期課程 | 5            | 15           | 6     |
|       | 機械工学専攻       | 修士課程   | 10           | 20           | 9     |
|       | 応用化学専攻       | 修士課程   | 10           | 20           | 17    |
|       | 建設システム開発工学専攻 | 修士課程   | 10           | 20           | 12    |
|       | 宇宙航空システム工学専攻 | 修士課程   | 5            | 10           | 0     |
|       | 応用情報学専攻      | 博士前期課程 | 10           | 20           | 9     |
|       | 応用微生物工学専攻    | 修士課程   | 10           | 20           | 15    |
|       | 応用生命科学専攻     | 博士前期課程 | 10           | 20           | 15    |
| 芸術研究科 | 芸術学専攻        | 博士後期課程 | 3            | 9            | 1     |
|       | 美術専攻         | 修士課程   | 6            | 12           | 8     |
|       | デザイン専攻       | 修士課程   | 6            | 12           | 3     |
| 薬学研究科 | 薬学専攻         | 博士課程   | 5            | 20           | 7     |

| 学部     | 学科          | 入 学 員<br>定 員 | 収 容<br>定 員 数 | 現 員 数 |
|--------|-------------|--------------|--------------|-------|
| 工学部    | 機械工学科       | 70           | 280          | 330   |
|        | ナノサイエンス学科   | 50           | 200          | 225   |
|        | 建築学科        | 50           | 200          | 338   |
|        | 宇宙航空システム工学科 | 90           | 360          | 347   |
| 芸術学部   | 美術学科        | 30           | 120          | 96    |
|        | デザイン学科      | 40           | 160          | 147   |
| 情報学部   | 情報学科        | 130          | 520          | 626   |
| 生物生命学部 | 応用微生物工学科    | 80           | 320          | 294   |
|        | 応用生命科学科     | 80           | 320          | 361   |
| 薬学部    | 薬学科 (6年制)   | 120          | 720          | 858   |

【崇城大学専門学校】

| 課程     | 学科   | 入 学 員<br>定 員 | 収 容<br>定 員 数 | 現 員 数 |
|--------|------|--------------|--------------|-------|
| 工業専門課程 | 情報学科 | 50           | 100          | 16    |

(5) 学部別志願者数・入学者数（平成31年度入試結果（30年度実施））

| 学 部    | 志願者   | 入学者 |
|--------|-------|-----|
| 工学部    | 1,684 | 343 |
| 芸術学部   | 165   | 73  |
| 情報学部   | 681   | 171 |
| 生物生命学部 | 963   | 202 |
| 薬学部    | 1,637 | 132 |
| 計      | 5,130 | 921 |

(6) 役員、教職員の概要等（H30.5.1 現在）

役員等数

|     |      |              |
|-----|------|--------------|
| 理 事 | 10 名 | （定数：8～10 名）  |
| 監 事 | 2 名  | （定数：2 名）     |
| 評議員 | 21 名 | （定数：17～21 名） |

教職員数

【崇城大学】

|     |       |                      |
|-----|-------|----------------------|
| 教 員 | 243 名 | （大学設置基準上必要教員数：136 名） |
| 職 員 | 118 名 |                      |

【崇城大学専門学校】

|     |     |
|-----|-----|
| 教 員 | 4 名 |
| 職 員 | 1 名 |

## 2. 事業の概要

### 崇城大学中長期計画

崇城大学は大学の 10 年後がどうなっているかとの観点から「教育力」「研究力」「社会連携」「大学環境」をキーワードに平成 25 年 10 月に中長期計画を策定し取り組んでいる。

中長期計画におけるキーワードごとの中期目標は次の通りである。

#### 1. 「教育力を高める」

幅広い基礎知識に基づき専門分野の学問を真に理解し修学するため、あらゆる生命活動を応用するという眼を通して教育する。

#### 2. 「研究力を高める」

Life-Inspired を指導原理とし、個々の専門分野の中に問題を発見し、生命活動の中に問題解決のヒントを得る。

#### 3. 「社会連携を推進する」

本学の特色を武器に、幸せ、命、暮らし、安全を通して社会との連携を図る。

#### 4. 「大学環境を整備する」

10 年先の教育、研究、社会連携を支えるために、財政基盤、教育・研究システムの整備、施設・設備の充実を図る。

中長期計画の策定から 5 年が経過し、6 年目である平成 30 年度からは第 2 期に入っており、長期目標の検証とさらなる改革を目指し、様々な取り組みを実施している。

平成 30 年度の特筆すべき事業として以下の通り報告する。

### (1) 熊本地震に係る事業

#### 1) 熊本地震による被害の復旧事業

平成 29～30 年度に掛けて D 号館の解体工事を実施し、学生のためのアメニティ複合施設「SoLA」を新築した。1 階にカフェテリアスペースおよび学生交流スペース、2 階にアクティブ・ラーニング教室、3 階に大講義室を整備した。

また、空港キャンパス体育館の復旧ならびに耐震改修工事が完了している。

なお、平成 30 年度内に、熊本地震による被害の復旧事業は完了しており、文部科学省に対して実績報告書を提出している。

#### 2) 学納金の減免（熊本地震被災者対象）

学校法人君が淵学園被災者特別支援内規に基づき、熊本地震により学納金を負担する保護者等が居住する建物（持家）が半壊以上の損壊となった者を対象に、修学が継続できるよう学納金の全額または半額免除の経済的支援を行った。

対象者数：117 名（全壊・大規模半壊：26 名、半壊：91 名）

支援総額：89,745,000 円

## (2) 教育、学生支援の充実

### 1) 新教育改革

平成 28 年 9 月に「教育改革ワーキンググループ」を立ち上げ、同年 11 月にカリキュラムの改定および e ポートフォリオの導入などの教育改革全般について答申が行われた。

本教育改革の骨子は以下のとおりである。

本教育改革は、教育改革の骨子のもとに教育改革実務組織により実施方策を検討し、平成 31 年度から本格運用を始めるために平成 30 年度は試験的運用と位置づけ、Ⅰ期を 4 年間（1 クール）とするⅡ期 8 年間にわたる中期的な教育改革を始めた。

平成 30 年度は、新教育改革（SEIP II）の試験的運用期間として SOJO ポートフォリオシステムの運用を開始した。

第Ⅰ期（令和元年～4 年度）では、学修させるための教育方略や仕掛けの開発と試行とによって学修する習慣を身につけさせ、日常的に学修する学生育成を目指し、この学生の学修姿勢を崇城大学の文化とする「学修させる大学づくり」を行う。

次に第Ⅱ期（令和 5～8 年度）では、学生が教育カリキュラムによって修得した知識・技能を道具として活用し、内外に発信できる学生の育成とそれを支援できる崇城大学を構築し、この成果を「崇城ブランド」とする「主体的に学修する大学づくり」を行う。

学生に「人間力」や「社会人基礎力」に示される項目で不足するものに自ら気づかせること、そしてその克服を実行し、不足している能力や技術を身につけるための仕掛けづくりを行うこと、教職員の学生への学修支援に対する更なる意識改革を行うこと、以上をもって自己改革を持続して行える学生を育て輩出することが本教育改革の主要な目的である。

#### 1. SEIP II 教育改革に関連するカリキュラムの編成の実施

- (1) 統一した教育目標（3 ポリシー）の制定
- (2) キャップ数（46 単位）
- (3) 教育目標に沿った開講科目の配置
- (4) 教育課程を大きく「基礎教育課程」と「専門教育課程」に再編
- (5) 地域社会・産業界などの教育目標への学外視点の取入
- (6) 新シラバス様式の対応
- (7) 科目の精選・スリム化
- (8) 時間割の見直し

#### 2. 「SOJO ポートフォリオシステム」の運用開始

学生が自然に PDCA サイクルを回す習慣を身につけ、学修エビデンスにもとづく自己評価と相互評価とによる振り返りの誘発、その結果としての学修意欲の促進を図る目的で、e ポートフォリオ「SOJO ポートフォリオシステム」の運用を開始

した。

### 3. その他の検討事項

#### 2) 奨学事業

経済的な理由で就学に困難をきたす学生を支援するために本学独自の奨学金制度を設けている。

奨学金は、入試結果により給付する「特待生制度」、在学中の成績により給付する「学業優秀奨学生制度」を設けている。特待生制度については、長引く世界的不況を受けて入学する学生に経済的支援を行なうべく平成 23 年度より「特待生制度」の枠を拡げたが、さらに平成 25 年度より崇城大学創立 50 周年記念事業として未来人育成を謳った「未来人育成特待生制度（ミライク）」の名称で給付額、対象人数枠を大幅に拡大した。

#### 【平成 30 年度実績】

| 制度名        |           | 受給人数  | 受給金額         |
|------------|-----------|-------|--------------|
| 未来人育成特待生制度 | ミライクプレミアム | 39 名  | 5,094 万円     |
|            | ミライク 50   | 354 名 | 2 億 2,349 万円 |
|            | アートミライク   | 6 名   | 324 万円       |
| 学業優秀奨学生制度  | 学業優秀奨学生制度 | 65 名  | 1240 万円      |
| 計          |           | 464 名 | 2 億 9,007 万円 |

#### 3) アクティブ・ラーニングの拠点整備（大学教育再生加速プログラム）

本学は平成 26 年度文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択されており、SILC に設置したアクティブ・ラーニングのための施設「SALC（Self-Access Learning Center）」独自の自律学修プログラムのノウハウを、全学の教養科目・専門科目に普及することを目的として事業を実施している。

平成 26 年度に設置した全学共通のアクティブ・ラーニングの拠点である全学 SALC に加えて、平成 27～28 年度にかけて全学科に学科 SALC を設置し全学的な運用を開始しており、継続的な取組みとしては全学科から学生の自律学修を促すためのファカルティ・ディベロッパー（教員）と学生ファシリテーターの選抜・養成、アクティブ・ラーニングの講義数の増加、専門科目の講義で出される課題の学科 SALC での自律学修サポートを行った。

また、後期授業開始に合わせてアクティブ・ラーニング教室を備えた新 D 号館（SoLA）が使用開始となった。

#### 4) 就職支援に関する事項

正課のキャリア教育実施や各学科教員による学生の個別指導徹底に加え、就職部では就職ガイダンス、合同企業説明会、各種就職支援講座、外部講師講演、業界説明

会、各種模擬テスト等の就職行事を実施し、全学一体の支援体制を整えている。また、就職課には資格を有する相談員（キャリア・カウンセラー）が、学生の申込み状況に応じて毎日 3～5 名待機しており、年間約 2,000 件の個別相談を受け付けて適宜助言を行っている。

各学科では、キャリア・アドバイザー（就職担当教員）が中心となり、就職行事への参加指導や就職斡旋を行いながら学生の動向掌握に努めているが、6 月以降は就職課と連携して 10 日毎に学生の就職活動状況を確認し、学生一人ひとりにきめ細やかな支援を実施している。

平成 30 年度卒業生の就職希望者に対する就職内定率は 99.7%となっている。

#### 5) 笑顔と感謝の表彰制度

平成 27 年 1 月、学生が生き生きと明るく成長していくことを促すため、既存の規程による表彰とは別に「笑顔と感謝の表彰制度」を設けた。この制度は、本学の創立以来の建学の精神である「体・徳・智」にちなみ、分野ごとの 3 つの賞（SOJO パワー賞、SOJO スピリット賞、SOJO ブレイン賞）で表彰を行う。各分野で頑張っている学生を幅広く表彰することで学生の頑張りに報い、ひいては本学の特色とし大学全体の活性化に繋げることを目的としている。

平成 30 年度は計 4 回表彰が行われ、SOJO パワー賞 292 名（内 1 件団体表彰）、SOJO スピリット賞 261 名、SOJO ブレイン賞 121 名、計 674 名が表彰された。

#### 6) 崇城大学起業家育成プログラムの実践

崇城大学は平成 26 年度より起業家育成プログラムを展開し、実践的な起業家教育を行っている。ベンチャービジネスについて学び、アントレプレナーシップを育成することを目的とした「ベンチャー起業論」を開講し、起業家育成を目的とした起業部「SOJO Ventures」を立ち上げた。また、多くの学生が熊本内外のビジネスプランコンテストに参加し、受賞に至っている。さらに、平成 27 年度はアントレプレナー支援施設として「SOJO Startup Lab」を開設した。本施設は起業部の活動拠点となり、起業家育成を充実させるものとなっている。

5 年目となる平成 30 年度も起業部の活動は活発に行われ、以下に一例を示すとおり数々のビジネスプランコンテストで受賞し活躍している。

##### 【ビジネスプランコンテスト受賞例】

- ・九州 ICT ビジネスプラン発表会 2018 ハイパー賞 受賞
- ・第 5 回熊本商工会議所ビジネスプランコンテスト 優秀賞 受賞

### (3) 施設設備等の整備・充実

#### 1) 教育環境向上に係る整備計画

- ・J号館エアコンリニューアル工事、慶賓館本食堂エアコン増設工事

建築学科・宇宙航空システム工学科棟は、竣工から 26 年が経過しており、エアコンが故障した場合は部品交換による修理にかなりの時間を要する状況にあったため、J 号館全体のエアコンの更新を計画、実施した。

慶賓館本食堂 2 階の空調負荷（壁面が窓ガラスかつ出入口ドアの開閉が多い）に対し、エアコンの能力が不足しており、特に冬季の室温がエアコン設定温度より低くなっていたため、エアコン増設工事を計画、実施した。

エアコンリニューアル等による電力負荷低減施策は、省エネ法により推進する必要があるため、老朽化が進行している他の建物についても継続的に計画していく必要がある。

#### ・薬学部校舎増築計画

薬学部校舎については、当初より 6 年課程を想定した設計を行ったうえ、校舎を新築した経緯があるが、学年進行に伴い、留年生の問題、定期考査等のクラスごとの実施などにより、各学年 1 講義室では不足する状態が続いており、薬学部から講義棟の増築要望が継続的に上程されていた。また、アメニティ空間（学食機能を含む）の整備も併せて要望がなされている。熊本地震前より計画の具体化を協議していたが、地震後は災害復旧工事を最優先する事になったため、計画が延伸されていた。

平成 30 年度に計画が再開され、薬学部要求事項を反映した仕様にて、平成 31 年 3 月上旬より基本設計が開始された。令和元年度より工事の着手を計画している（令和 2 年 9 月の後期授業より供用開始予定）。

#### ・バリアフリー工事

上述の D 号館新築後の周辺外構整備工事とリンクするが、D 号館から M 号館を経由し、図書館へ至る動線、および憩いの広場から本館前の通路屋根部へ至る動線上にある段差のバリアフリー化工事を実施した。

#### ・SILC 南側日本庭園再整備計画

新 SILC 棟竣工後の SILC の南側日本庭園との接続性のある庭園再整備を計画し、整備を実施した。

### 2) 学生、学科等学内からの要望による整備計画

#### ・トイレ改修工事

年次計画にて洋式化整備を実施している。平成 30 年度は F 号館の 7~9 階、I 号館 1~6 階、本館 2~6 階を対象とし、計画通りの箇所を全て施工完了した。

#### ・憩いの広場屋根補修工事

竣工後 23 年が経過。屋根のガラス部材の目地シーリング材が劣化し、雨漏り箇所が拡大し、屋根直下での雨天時利用に支障をきたしている状況であった。また、

屋根を支えている鉄骨部材（システムトラス）も全体的に発錆しており、発生除去、部材の一部交換、全面塗装を実施した。

・ **野球場東側、薬学部学生駐車場路面整備工事**

野球場東側の畑を砂利敷均し路面にて駐車場整備を実施したが、雨天時に泥濘の状態となり、轍が発生して支障が出ているため、隣接駐車場同様アスファルト舗装を計画。薬学部駐車場も同様に路面が砂利敷均しであり、不陸箇所水溜り箇所が複数発生しており、区画ロープが劣化し、利用者間のトラブルもしばしば見受けられたため、路面整備後、白線引きにより区画整理した。

・ **体育施設改修**

ソフトボール場、テニスコート等の体育施設の老朽化が著しいため、平成 30 年度においては、ソフトボール場（南側）、テニスコート（南側）において、コート、フェンス等の構築物を改修した。年次計画の下、令和元年度以降もテニスコート（北側）、ソフトボール場（北側）のコート、フェンス整備の実施を計画している。

3) その他

・ **応用微生物研究所解体整備**

運用停止より 2 年経過化し、再利用の計画がないこと、主要な備品について、H 号館への移設が平成 29 年度に完了したことから、平成 30 年度において、建物解体を実施した。解体後、暫くの期間更地の状態にする必要があり、令和元年度内に用地の駐車場整備実施を計画している。

(4) 地域連携関係

1) 協定先との連携事業内容

本学では、高等教育研究機関の社会的責務である教育・研究成果の（地域）社会への積極的還元を行っている。自治体等と協定を締結し、協定先との連携推進と社会的要請に基づく課題解決への取り組みを行っており、平成 30 年度の連携の取り組みは以下の通りである。

| 連携機関名 | 連携事業実績                     |
|-------|----------------------------|
| 熊本市   | 「熊本人暮らしみずあかり」オブジェ作成（継続）    |
|       | 「熊本市建築審査会委員」への委員派遣         |
|       | 「熊本市景観審議会」への委員派遣（継続）       |
|       | 「熊本城ホール機運醸成イベント」への協力       |
|       | 「生涯学習ふれあい出前講座」への講師派遣（継続）   |
|       | 「小規模マッチング会（産学連携相談会）」への講師派遣 |
|       | 「健康くまもと 21 推進会議委員」への委員派遣   |

|                  |  |
|------------------|--|
|                  | 「熊本市交通局外側広告審議会委員」への委員派遣                          |
|                  | 「熊本市市民病院敷地内薬局設置事業事業者選考委員会」への委員派遣                 |
|                  | 「熊本市勤労青少年ホーム運営委員会」への委員派遣                         |
|                  | 「熊本市教科用図書選定委員会」への委員派遣                            |
|                  | 「第一学年総合的な学習の時間における職業講話」への講師派遣                    |
|                  | 「熊本人暮らしみずあかり」事務局次長として委員派遣                        |
| 上天草市             | 「上天草市空家対策協議会」への委員派遣                              |
| 八代市              | 「八代市環境審議会」への委員派遣                                 |
|                  | 妙見祭と宮地和紙のイベントへの講師派遣                              |
| 合志市              | 「合志市立地適正化計画策定及び合志市都市計画マスタープラン改訂委員会」への委員派遣        |
|                  | 「合志市小中学校新設校建設事業者選定委員会」への委員派遣                     |
|                  | 「合志市特産品地域ブランド推進協議会認証審査部会」への委員派遣                  |
|                  | 「合志市生涯学習後期主催事業」への講師派遣                            |
| 山鹿市              | 「山鹿百華百彩」オブジェ作成                                   |
|                  | 「山鹿市歴史的風致維持向上計画協議会委員」への委員派遣                      |
|                  | 「山鹿市景観審議会委員」への委員派遣                               |
|                  | 「山鹿市生涯学習講座「食と健康」コース」への講師派遣                       |
| 宇土市              | 「宇土市地域公共交通会議」への委員派遣                              |
|                  | 「宇土の資産活用まちづくり」への提案（PBL授業）                        |
|                  | 宇土市地蔵祭りオブジェ制作                                    |
| 玉名市              | 玉名市高瀬町サテライト研究室を中心とした街づくり支援活動に協力                  |
|                  | 高瀬蔵を利用したイベント「第10回アート in 高瀬彫刻展」の開催                |
|                  | NHK 大河ドラマ「いだてん」金栗四三の古里をPRするロゴマーク全国公募の審査員として委員を派遣 |
| 臼杵市              | 「うすき竹宵」オブジェ作成                                    |
| 益城町              | 益城町小池島田地区仮設団地の支援（靴箱づくり、みんなの家使われ方調査など）            |
| 宇城市              | 「宇城市文化的景観整備活用委員会」への委員派遣                          |
|                  | 産学連携による「宇城市プログラミング教室」の開催                         |
| 熊本県              | 高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会における「熊本県訓練計画専門部会」への委員派遣      |
|                  | 熊本県リサイクル製品認証審査委員会への委員派遣                          |
|                  | 「スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会」への委員派遣                   |
|                  | 「スーパーサイエンスハイスクール事業学校設定科目特別講義」への講師派遣              |
|                  | 「スーパースーパーグローバルハイスクール運営指導委員会」への委員派遣               |
|                  | 「高校生ものづくりコンテスト」への委員派遣                            |
|                  | SSH以外の高校主催の講演会等への委員・講師派遣                         |
|                  | 「大規模集客施設の広域調整検討委員会」への委員派遣                        |
| 「熊本県公害審査会」への委員派遣 |  |

|     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
|     | 「くまもと県民カレッジ」への講師派遣                   |
|     | 「環境審議会」への委員派遣                        |
|     | 若手技能者人材育成事業「IT マスター指導技法等講習会」への講師派遣   |
|     | 「熊本県農業研究センター遺伝子組換え実験安全委員会」への委員派遣     |
|     | 「熊本県環境審議会委員」への委員派遣                   |
|     | 「熊本県業事審議会委員」への委員派遣                   |
|     | 「熊本県後発医薬品安心使用・啓発協議会」への委員派遣           |
|     | 「くまもと文学・歴史館協議会」への委員派遣                |
|     | 「リーディング企業創出事業」への委員派遣                 |
|     | 「心のケア サポート会議」および「熊本地震に係る学校視察」への講師派遣  |
|     | 「熊本県入札監視委員会」への委員派遣                   |
| 長洲町 | 「子育て世代総合支援センター「はぐくみ館」運営委員」への委員派遣     |
|     | 「長洲町・海金プロジェクトのぼり旗制作ワークショップ」への講師派遣    |
|     | 「金魚サミット in ながすに向けたワークショップ」への講師派遣     |
| 菊池市 | まちなかデザインおよび武藤家（古民家）活用プロジェクトのための調査員派遣 |
|     | 菊池武光公生誕 700 周年記念ロゴデザイン審査員派遣          |

## 2) 市民公開講座の開催

社会人の知的好奇心や向学心に応えるため、平成 29 年度より「市民公開講座」を開講している。本学教員が専門家としての立場から、自然・人文・社会科学分野の様々な興味深いトピックや社会の関心を集めている話題等を取り上げ、社会人の方、高齢者の方向けにわかりやすく、講義、解説している。

平成 30 年度の申込者は 263 名となっており、4 回以上受講した 155 名に修了証を交付した。平成 30 年度のプログラムは以下の通りである。

| 実施日                    | 講師        | テーマ   | 受講者数  |
|------------------------|-----------|---|-------|
| 8/7 (火)                | 薬学 門脇大介   | 意外と知らない腎臓と薬の関係                                  | 182 名 |
| 8/28 (火)<br>(7/3 から延期) | 応微 山田耕路   | 食と健康<br>～健康食品を賢く使おう～                            | 162 名 |
| 9/4 (火)                | 機械 齊藤弘順   | 高齢化社会における先進自動車技術                                | 160 名 |
| 10/2 (火)               | ナノ 池永和敏   | 甦れ、熊本地震のがれき！<br>～災害復旧技術としての廃プラスチックの<br>リサイクル研究～ | 138 名 |
| 11/6 (火)               | 宇宙 渡辺武憲   | 航空会社の経営と安全対策<br>～パイロット、CAの採用と養成は～               | 146 名 |
| 12/4 (火)               | デザイン 飯田晴彦 | デザインが世界を変える！<br>～デザインの意味、そしてチカラとは～              | 133 名 |

## (5) 研究活動関係

### 1) 外部資金獲得状況

平成 30 年度に受入れた外部資金は以下の通りである。

|        | 件数    | (直接経費)        | (間接経費)       | 受入金額計         |
|--------|-------|---------------|--------------|---------------|
| 科研費    | 61 件  | 66,839,645 円  | 19,083,581 円 | 85,923,226 円  |
| 受託共同研究 | 42 件  | 19,866,733 円  | 2,233,762 円  | 22,100,495 円  |
| 奨学寄附金  | 48 件  | 32,181,674 円  | 1,787,760 円  | 33,969,434 円  |
| その他    | 13 件  | 31,680,535 円  | 7,109,123 円  | 38,789,658 円  |
| 合計     | 164 件 | 150,568,587 円 | 30,214,226 円 | 180,782,813 円 |

### 2) 崇城大学研究支援プログラム (SRAP) の活動

学内における異分野共同研究の促進および若手研究者の育成を目的として活動していた「不思議探求 SOJO セミナー」を発展的に解消し、平成 29 年度に研究活動支援プロジェクト (SRAP) をスタートした。平成 30 年度は、研究発表会 (6/14、3/26) の他、科研費獲得支援講演会 (7/30)、研究・産学連携支援講演会 (9/12) を開催している。

### 3) SOJO コラボ技術交流会

SOJO コラボは、本学を中心として熊本県内およびその周辺の企業および自治体により密接に連携することにより、加盟機関のニーズを円滑に汲み取り、迅速にフィードバックする役割を果たすことを目的として平成 26 年度に発足した。

平成 30 年度に開催した「第 5 回技術交流会 (10 月 5 日開催)」においては、29 社 40 名が参加し、デザイン学科岩上孝二教授および情報学科堀部典子准教授によるシーズ口頭発表、本学教員 25 名によるポスター発表および大学見学会の実施によって連携を深めた。

### 4) 研究に関する受賞

| 受賞者                | 受賞                                 |
|--------------------|------------------------------------|
| 機械工学科 北田良二准教授      | 「一般社団法人電気加工学会 英文誌」論文賞              |
| 機械工学科 平雄一郎准教授      | 国際会議「ICT-ROBOT 2018」最優秀論文賞         |
| 薬学科 庵原大輔准教授 (当時講師) | 「日本薬学会九州支部大会」学術奨励賞                 |
| 薬学科 安楽誠教授          | 国際学会「PST2018」<br>ベストオーラルプレゼンテーション賞 |
| 建築学科 西郷正浩教授        | 「くまもとアートポリス」推進賞                    |
| 機械工学科 齊藤弘順教授       | 国際学会「TSME-ICoME2018」最優秀論文賞         |
| 応用生命科学科 古水雄志准教授    | 「日本動物実験代替法学会」日化協 LRI 賞             |

## (6) 国際交流関係

平成 27 年 6 月に「国際交流センター」を設立し、M 号館（アクティブコモンズ 2 階）で活動を開始した。本学の学生をグローバル人材として育成すること、大学の国際交流に関する窓口として外国の諸機関との教育・研究および学生・教職員の交流を促進すること、および本学と国際交流協定を締結した外国の大学等との共同研究の促進を図ることを目的としており、平成 30 年度は以下の活動を行った。

### 1) 海外協定校数実績 15 ヶ国 2 地域 33 校 (32 大学、1 高校)

### 2) 本学から海外への学生派遣実績 (平成 30 年度 273 名)

前年度と比較すると、海外協定校への学生派遣数は 87 名から 108 名に増え、海外協定校以外への学生派遣数も 155 名から 165 名に増加した。海外への学生派遣数は合計 273 名となり、前年度より 31 名増加した。

#### < 海外協定校への学生派遣実績 (108名) >

|      |                        |     |
|------|------------------------|-----|
| 短期研修 | キャラニヤ大学/UVPA大学 (スリランカ) | 10名 |
|      | ルブリン工科大学 (ポーランド)       | 6名  |
|      | 香港大学 (中国)              | 2名  |
|      | ペトロナス工科大学 (マレーシア)      | 4名  |
|      | アウクスブルク応用科学大学 (ドイツ)    | 15名 |
|      | 高苑科技大学 (台湾)            | 32名 |
|      | 慶星大学 (韓国)              | 14名 |
|      | シチェチンアートアカデミー (ポーランド)  | 3名  |
| 交換留学 | アウクスブルク応用科学大学 (ドイツ)    | 1名  |
| 国際学会 | 慶星大学 (韓国)              | 17名 |
|      | ソククラ王子大学 プークェット校 (タイ)  | 4名  |

#### < 海外協定校以外への学生派遣実績 (165名) >

各学科が企画する「学科研修」への参加者が多く、機械工学科ベトナム研修に 7 名、ナノサイエンス学科バンコク研修に 23 名、建築学科ヨーロッパ研修に 19 名、宇宙航空システム工学科米国研修に 28 名、芸術学部ヨーロッパ研修に 27 名、薬学科 MPC 薬局インターン研修に 11 名の学生が参加した。また、新たに宇宙航空システム工学科航空操縦学専攻の操縦訓練が米国で始まり、2 名が参加した。熊本市が主催するハイデルベルグ市のサマーサイエンスプログラムへ熊本市の代表として 2 名が参加した。さらに、協定校以外で開催された国際学会に 7 名の参加があった。

### 3) 本学への外国人留学生受入実績（平成 30 年度 92 名）

海外協定校から 28 名、海外協定校以外から 64 名の計 92 名であった。

学生が運営する国際交流サークルと協力して外国人留学生との交流を活発に行い、また、国際交流サポーター制度を導入し、グローバル人材育成を積極的に行った。

#### <海外協定校からの受入実績（28名）>

|                                |            |
|--------------------------------|------------|
| ペトロナス工科大学（マレーシア） 交換留学生（半年間）    | 9名         |
| アウクスブルク応用科学大学（ドイツ） 交換留学生（半年間）  | 2名         |
| 香港大学（香港） 交換留学生（1ヶ月間）           | 3名         |
| カーティン大学（オーストラリア） 交換留学生（1ヶ月間）   | 2名         |
| 重慶大学（中国） 交換留学生（半年間）            | 2名         |
| ソクラ王子大学（タイ） さくらサイエンスプラン        | 8名（教員1名同行） |
| シチェンアートアカデミー（ポーランド） 短期訪問（10日間） | 2名（教員1名同行） |

#### <海外協定校以外からの受入実績（64名）>

協定を締結していない圓光大学（韓国）より 2 名の学生の受入があった。また、国費留学生が 5 名、私費留学生は、学部生 51 名・大学院生 6 名の計 57 名であり、海外協定校以外からの受入れは 64 名であった。

### 4) 崇城大学の英語版ホームページのリニューアル

既存の英語版ホームページの内容を見直し、主なターゲットを日本国内の日本語学校在籍の留学生、海外協定校の教職員・学生、その他海外の大学教職員・学生・保護者とし、学生募集に重点を置いた内容でリニューアルを行った。平成 31 年 3 月 25 日より公開している。

### 5) 教職員の海外研修の推進

若手の教職員の英会話能力の向上またはグローバルな視野の形成を目的として 2 週間程度の海外研修を行う「崇城大学海外研修プログラムに伴う教職員海外研修規程」を平成 29 年に制定しており、平成 30 年度は本プログラムにより 4 名の教職員の研修を実施した。

### (7) 学生募集の取組み

すべての学科において入学定員を充足することを目的に様々な取組みを実施した。高校生だけではなく、保護者へのアプローチも重要だと考え、保護者同伴可能なイベント開催や制作物ツールなどを中心に取り組んだ。

#### 1) 芸術学部特別講習会の開催

芸術学部単独で実施する特別講習会を 3、6、11 月の計 3 回実施した。全学オープン

ンキャンパスと合わせると計 5 回の実施だが、すべての回において「デッサン講習会」を実施し、芸術学部教員のデッサン指導力の周知にも努めた。

高校生が普段経験することができない裸婦デッサンや長時間のデッサンなどを体験させ、本学教員が作品の講評を行うことで更に実力を磨き、芸術に対する意欲を引き出すことができた。

## 2) まるごと学び DAY の開催

高校 1、2 年生を対象に 3 月という進級する前に大学進学について考えるきっかけを作ってもらい、学びたい学問や大学のイメージをつけてもらうことを目的とし、平成 28 年度より実施している。

今年度は、株式会社フロムページ主催の「夢ナビライブ」の中で実施されている「夢ナビ TALK」を「まるごと学び DAY」で実施した。「夢ナビ TALK」は、学問の学びを 3 分間（1 講座）のプレゼン形式で本学教員が発表し、TALK を聞いた高校生が実際にその講座（30 分/1 コマ）に参加するというプログラムで、本学教員 10 名が自身の学問の魅力を来場者に分かりやすく伝えることができた。

早い段階からの告知や高校単位での申し込み受付を行ったことで 230 名の来場者が参加した。

また、保護者向けにも進学準備に関すること（費用面や進路選択方法等）を中心に説明会を行い、好評だった。早い段階から本学への進学を考えている方を惹きつけ、学生募集に繋がるイベントとなった。

## 3) 保護者向けオープンキャンパスの開催

入試対策講座（9、10 月に開催）と同時開催で「保護者向けオープンキャンパス」を開催した。お子様が入試対策講座を受講している時間に保護者の視点に立った大学紹介や SAGAS（学生スタッフ）によるキャンパスツアーや個別相談等を実施し、保護者からも好評だった。

## 4) 合格者向け大学見学会の開催

本学で最も受験生が多い年明け入試（一般入試前期日程、センター試験利用入試前期日程、センターマルチ入試）の合格者を対象に、実際に足を運んでもらい、本学の学びや学生支援などの魅力を伝え入学に結び付けることを目的として見学会を開催した。

期間は、合格発表後の 3 月 2 日から入学手続き期限前の 3 月 10 日までとし、SAGAS（学生スタッフ）にも協力してもらいながら行った。その結果、158 組の申込みがあり、その内 141 組の入学へ結びついた。

## 5) 保護者向け冊子、県別リーフレットの制作

昨年度より①「保護者向け進学ナビゲーション BOOK」と②「SOJO LIFE（九州県別）」を制作しており、今年度も引き続き制作した。①は保護者向けに進学につい

てお子様と一緒に考えてもらうための流れや費用について掲載し、②では九州各県出身の在学学生を選出し、同郷出身で頑張っている学生の紹介や、県別の特徴などを中心に掲載した。

①は保護者向けのガイダンスや見学会にて配布し、②は進学ガイダンスやオープンキャンパスに参加した高校生や資料を請求された方へ配布した。

## (8) その他

### 1) 崇城大学基金

平成 25 年度より「崇城大学基金」を創設。募集期間は、平成 25 年 4 月 1 日から 5 年間とし、平成 30 年 3 月 31 日に一旦終了としたが、年々増加している学生の海外留学を推進し支援するため、引き続き平成 30 年度も第 6 期として寄付募集を行った。今期は、学生保護者、卒業生、旧教職員、企業、教職員等から、総額 6,141,000 円の寄付をいただいた。なお、寄付金の使用状況等のご報告については、大学のホームページや基金の募集案内に本学の海外研修に対する取組みや学生の声と共に掲載を行った。

来年度は、更なる寄付金の獲得を目指し、新たな取組みとし、クレジットカード決済の導入を予定している。

### 2) 教職員退職者の会の開催

本学園を退職された方へ学園、大学、専門学校の現状をお知らせするとともに、旧交を温めていただくこと、ひいては学園、大学、専門学校のより一層の発展へ繋げることを目的とし、退職された教職員有志による発案で、平成 24 年 5 月に崇友会を発足した。平成 30 年 11 月に第 6 回目となる懇親会を開催し、盛況のうちに終了した。参加された方から様々なご意見・ご要望をいただき、有意義な会となった。

### 3) 大学ホームページのリニューアル

前回の平成 23 年の大きなリニューアルから、毎年小さなリニューアルを続けてきた。その間、スマートフォンの利用拡大に伴い、ホームページでの情報収集行動が大きく変化しているため、各学科代表のホームページ検討会議メンバーと協議を重ね、リニューアルの目的を以下の 4 点に設定し、平成 30 年 10 月にリニューアルオープンした。

- ①スマホ対応（高校生のスマホ保有率は 93.0%）
- ②情報の整理（利便性の高い CMS の設計）
- ③デザイントレンドの導入
- ④入学志願者へのわかりやすい情報提供

なお、本学ホームページでは外部評価を導入しており、日経 BP による全国大学サイトユーザビリティ 2018-2019 年において、全国 5 位／九州 1 位の評価を得た。

### 3 財務の概要

#### 資金収支計算書

(単位:千円)

| 収入の部       |             |             | 支出の部      |            |            |
|------------|-------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 科目         | 29年度        | 30年度        | 科目        | 29年度       | 30年度       |
| 学生生徒等納付金収入 | 5,302,704   | 5,305,655   | 人件費支出     | 3,383,690  | 3,442,180  |
| 手数料収入      | 78,824      | 92,724      | 教育研究経費支出  | 3,021,783  | 1,995,696  |
| 寄付金収入      | 44,838      | 46,406      | 管理経費支出    | 710,480    | 547,648    |
| 補助金収入      | 1,396,687   | 2,354,938   | 借入金等利息支出  | 318        | 505        |
| 資産売却収入     | 377,006     | 24,665      | 借入金等返済支出  | 10,500     | 114,000    |
| 事業収入       | 91,289      | 81,703      | 施設関係支出    | 2,033,414  | 945,233    |
| 受取利息・配当金収入 | 40,656      | 16,408      | 設備関係支出    | 653,959    | 279,101    |
| 雑収入        | 339,213     | 382,118     | 資産運用支出    | 1,009,000  | 2,000,000  |
| 借入金等収入     | 1,500,000   | 100,000     | その他の支出    | 201,913    | 203,392    |
| 前受金収入      | 844,962     | 909,165     | 資金支出調整勘定  | △ 183,608  | △ 229,775  |
| その他の収入     | 657,047     | 1,095,791   | 次年度繰越支払資金 | 7,054,707  | 5,801,553  |
| 資金収入調整勘定   | △ 1,366,059 | △ 2,364,747 |           |            |            |
| 前年度繰越支払資金  | 8,588,988   | 7,054,707   |           |            |            |
| 収入の部合計     | 17,896,155  | 15,099,533  | 支出の部合計    | 17,896,155 | 15,099,533 |

事業活動収支計算書

(単位:千円)

|               |             | 科 目         | 29年度      | 30年度      |
|---------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| 教育活動収支        | 事業活動収入の部    | 学生生徒等納付金    | 5,302,704 | 5,305,655 |
|               |             | 手数料         | 78,824    | 92,723    |
|               |             | 寄付金         | 50,210    | 54,647    |
|               |             | 経常費等補助金     | 1,396,687 | 2,321,910 |
|               |             | 付随事業収入      | 91,289    | 81,703    |
|               |             | 雑収入         | 339,213   | 382,118   |
|               |             | 教育活動収入計     | 7,258,926 | 8,238,756 |
|               |             |             |           |           |
|               |             | 科 目         | 29年度      | 30年度      |
| 教育活動支出の部      | 事業活動支出の部    | 人件費         | 3,417,222 | 3,470,877 |
|               |             | 教育研究経費      | 3,192,360 | 2,836,867 |
|               |             | 管理経費        | 681,352   | 679,193   |
|               |             | 徴収不能額等      | 0         | 1,276     |
|               |             | 教育活動支出計     | 7,290,935 | 6,988,213 |
|               |             | 教育活動収支差額    | △ 32,009  | 1,250,543 |
| 教育活動外収支       | 事業活動収入の部    | 科 目         | 29年度      | 30年度      |
|               |             | 受取利息・配当金    | 40,656    | 16,408    |
|               |             | その他の教育活動外収入 | 0         | 0         |
|               |             | 教育活動外収入計    | 40,656    | 16,408    |
|               | 事業活動支出の部    | 科 目         | 29年度      | 30年度      |
|               |             | 借入金利息       | 318       | 505       |
|               |             | その他の教育活動外支出 | 0         | 0         |
|               |             | 教育活動外支出計    | 318       | 505       |
| 教育活動外収支差額     | 40,338      | 15,903      |           |           |
| 経常収支差額        | 8,330       | 1,266,446   |           |           |
| 特別収支          | 事業活動収入の部    | 科 目         | 29年度      | 30年度      |
|               |             | 資産売却差額      | 54,615    | 2,416     |
|               |             | その他の特別収入    | 10,538    | 61,166    |
|               |             | 特別収入計       | 65,153    | 63,582    |
|               | 事業活動支出の部    | 科 目         | 29年度      | 30年度      |
|               |             | 資産処分差額      | 64,570    | 39,622    |
|               |             | その他の特別支出    | 0         | 0         |
|               |             | 特別支出計       | 64,570    | 39,622    |
| 特別収支差額        | 584         | 23,960      |           |           |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 8,914       | 1,290,406   |           |           |
| 基本金組入額合計      | △88,557     | △991,461    |           |           |
| 当年度収支差額       | △79,644     | 298,945     |           |           |
| 前年度繰越収支差額     | △10,247,753 | △10,327,397 |           |           |
| 基本金取崩額        | 0           | 0           |           |           |
| 翌年度繰越収支差額     | △10,327,397 | △10,028,452 |           |           |
| (参考)          |             |             |           |           |
| 事業活動収入計       |             |             | 7,364,736 | 8,318,746 |
| 事業活動支出計       |             |             | 7,355,822 | 7,028,340 |

## 貸借対照表

(単位 千円)

| 資 産 の 部     |            |            | 負 債 の 部     |              |              |
|-------------|------------|------------|-------------|--------------|--------------|
| 科 目         | 29年度       | 30年度       | 科 目         | 29年度         | 30年度         |
| 固 定 資 産     | 31,648,742 | 33,374,869 | 負 債         | 4,107,027    | 4,321,930    |
| 有 形 固 定 資 産 | 28,102,977 | 28,343,606 | 固 定 負 債     | 2,871,815    | 2,884,422    |
| 特 定 資 産     | 2,150,000  | 2,150,000  | 流 動 負 債     | 1,235,212    | 1,437,508    |
| その他の固定資産    | 1,395,765  | 2,881,263  | 基 本 金       | 45,463,567   | 46,455,028   |
| 流 動 資 産     | 7,594,455  | 7,373,637  | 第 1 号 基 本 金 | 45,028,567   | 46,020,028   |
| 現 金 預 金     | 7,054,707  | 5,801,552  | 第 4 号 基 本 金 | 435,000      | 435,000      |
| そ の 他       | 539,748    | 1,572,085  | 繰越収支差額      | △ 10,327,397 | △ 10,028,452 |
|             |            |            | 翌年度繰越収支差額   | △ 10,327,397 | △ 10,028,452 |
| 合 計         | 39,243,197 | 40,748,506 | 合 計         | 39,243,197   | 40,748,506   |

財務比率表

| 分類                    | 比 率        | 算 式 (×100)   | 29年度   | 30年度   |
|-----------------------|------------|--|--------|--------|
| 貸<br>借<br>対<br>照<br>表 | 繰越収支差額構成比率 | $\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$             | -26.3% | -24.6% |
|                       | 基本金比率      | $\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$                        | 97.4%  | 97.4%  |
|                       | 固定比率       | $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$                           | 90.1%  | 91.6%  |
|                       | 固定長期適合率    | $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$             | 83.3%  | 84.9%  |
|                       | 流動比率       | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$                          | 614.8% | 512.9% |
|                       | 前受金保有率     | $\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$                           | 834.9% | 638.1% |
|                       | 総負債比率      | $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$                            | 10.5%  | 10.6%  |
|                       | 負債比率       | $\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$                            | 11.7%  | 11.9%  |
|                       | 減価償却費率     | $\frac{\text{減価償却累計額 (図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価額 (図書を除く)}}$ | 58.8%  | 57.9%  |
| 事業活動収支計算書             | 人件費比率      | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$                           | 46.8%  | 42.0%  |
|                       | 人件費依存率     | $\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$                       | 64.4%  | 65.4%  |
|                       | 教育研究経費比率   | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$                        | 43.7%  | 34.4%  |
|                       | 管理経費比率     | $\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$                          | 9.3%   | 8.2%   |
|                       | 基本金組入後収支比率 | $\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}$      | 101.1% | 95.9%  |
|                       | 学生生徒等納付金比率 | $\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$                      | 72.6%  | 64.3%  |
|                       | 寄付金比率      | $\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$                         | 0.8%   | 1.0%   |
|                       | 補助金比率      | $\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$                         | 19.0%  | 27.9%  |
|                       | 基本金組入率     | $\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$                      | 1.2%   | 11.9%  |

(注) 小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを記載。